2023 年度　東京理科大学　内部質保証に係る外部評価　実施報告

１．内部質保証に係る外部評価概要

本学において現在展開している内部質保証システムの適切性の点検・評価を行い、内部質保証を効果的に推進すること、当該システムの高度化を図るとともにその充実につなげることを目的として、評価員を委嘱した外部有識者 4 名に対して、以下の 3 点について評価するよう諮問した。

- 本学の自己点検・評価に係る事項
- 本学の内部質保証システムに係る事項
- 本学の長所・特色に係る事項

評価員から書面による評価結果を受領した後、これを基にした意見交換会を開催した。（以下２.）

２．意見交換会　記録

（１）開催概要

日　時：2024 年 2 月 13 日（月）15 時 30 分～17 時 00 分

場　所：東京理科大学神楽坂キャンパス 9 号館 7 階第 1 会議室

出席者：（評価員）独立行政法人大学改革支援・学位授与機構　参与　岡本和夫　氏
東京大学教育学研究科大学経営・政策コース　教授　両角亜希子　氏
リクルート進学総研所長、カレッジマネジメント編集長　小林浩　氏
中央大学　客員教授　早田幸政　氏
（本　学）石川正俊学長、倉渕隆副学長（内部質保証担当）、
井手本康副学長（教育担当）、兵庫明常務理事（評価担当）
（事務局）市川学務部長、青山大学評価・IR 室長、増田大学評価・IR 室係長、
山本学長事務課主任

（２）書面評価結果概要及び意見交換内容（抜粋）

①本学の内部質保証システムについて

＜書面評価結果概要-1＞

本学の内部質保証体制について、全学的組織の整備及び内部質保証のための全学的な方針と手続きを策定し、学長のもとで「大学質保証推進委員会」「自己点検・評価委員会」を設置して、部局において自己点検・評価活動・改善活動を実施していること、内部質保証システムの監理として外部評価を取りいれていることから、内部質保証システムは十全に機能しているとの評価をいただいた。

今後のさらなる発展に向けては、重要なステークホルダーである学生や卒業生の声を内部質保証システムに活用する仕組みを構築するとともに、そこで得た意見・要望等を活かし

た改善計画の策定・改善結果のフィードバックの方法等を検討する必要があるとの提案をいただいた。

＜意見交換テーマ-1：学生や外部の意見を取り入れた内部質保証＞

（以下、●：本学、〇評価員）

●現在、内部質保証システムにおいて、直接ヒアリングを行っているのは大学質保証推進委員会委員・外部評価員を委嘱している学外有識者の方々のみであり、卒業生及び進路先企業は書面でのアンケートのみを実施している。第 4 期認証評価において、学生の意見や外部の視点を取り入れる等の工夫が求められているが、効果的・効率的にそれらの意見を聴取し、内部質保証の活動、学部学科単位の教育課程編成に反映させるには、どのような取組が考えられるか。

〇アンケートでは数値以上のことを把握することが難しいため、直接意見交換をすることは賛成である。意見交換に当たっては、可能であればオープンにし、学内外の方から見える場で実施しても良いのではないか。

〇学長や副学長を相手にすると学生は委縮してしまう。アンケートの結果をもとに、学生が本音ベースで話すことができる場を設定したい。他大学の事例では、学生職員という取り組みをしていて、新しいアイデアが出ている。

〇成績評価に学生が参画するというのは、ルーブリックを作成する過程で学生の意見を反映させることである。本学のポートフォリオは教職課程で成果を挙げていると聞いている。今後のポートフォリオの活用策として、教員の成績評価と学生の学習成果のルーブリックをすり合わせる等の施策を考えたい。

〇学生に大学を評価してもらい、どうしたら大学がもっと良くなるかという内容でレポートを書いてもらった大学もある。そういった取り組みを本学で行うことを目指してはどうか。

＜書面評価結果概要-2＞

本学の内部質保証システムについての事項では、教育研究の内部質保証を実質的に支える学部・研究科その他の組織との成果の共有と役割分担についてもご提案をいただいた。

＜意見交換テーマ-2：学部・研究科その他の組織との成果の共有と役割分担について＞

●大学質保証推進委員会において、昨年 12 月に理学部第一部、薬学部、先進工学部との意見交換を実施した。推進委員会での審議結果が各部局に適切にフィードバックされるには他にどのような試みが考えられるか。

〇部局でどのようなことが起きているかということを大学全体で認識してマネジメントしていく、部局と大学双方でコミュニケーションをしていく必要がある。

〇第３期認証評価からは大学のシステムが機能しているかを重点的に確認するようになった。システムが機能しているか否かを評価するには、部局とのコミュニケーションは重要

と考える。質保証を長所として評価されている大学は少なく、本学は高く評価されている。

○評価の結果をどう改善に結びつけるか、学位プログラム・教員組織としてこれで良いのかという議論をしていくことができれば教員の参加率も上がっていくのではないか。薬学は高度人材育成をしているので、その成果を他学部に持ちこむことでプラスになると考えられる。

●各部局で自己点検・評価をしているため、情報交換は有意義と考えている。引き続き意見交換会は実施していきたい。

②本学の自己点検・評価について

＜書面評価結果概要＞

自己点検・評価の基本方針、実施方針は適切に設定されており、2021 年の外部評価において指摘された事項について各部局にフィードバックされ改善活動が行われている。

一方で、教育活動の状況と教育成果の状況について「学びのオーナーシップ」の帰属主体が学生であることを意識したうえで、検証結果のフィードバックを学生の学びの質の向上とその成長支援に向けることについて提案をいただいた。

＜意見交換テーマ：学生の学びの質向上とその成長支援の方策について＞

●第４期認証評価において、教育の充実と学習成果の向上を図ることが求められており、具体的な例として「学習成果の可視化に向けた調整・支援」が示されている。本学では学修ポートフォリオシステムにより、学生が自身の成長について、自己評価と客観評価を比較することでそのギャップを体感できる仕組みとなっているが、学生へのフィードバックが十分にできていないことが課題であり、今後どのように活用していくか。また、学生が学位授与方針に定める能力を身に着けたかをどのように判定するかを課題として認識している。卒業研究だけでは学位授与方針のすべてを満たすことはできないと考えられるため、総合的に確認・判断をする機会や指標をどのように設定するか。

○学生の学年、学部によって考え方も異なるため、学生に考えさせることを提案したい。

○学生は教員より、同級生や先輩に言われたことの方が受け入れやすいので、それをどのような形でシステムに組み込んでいくか。カリキュラムマップを作成し、シラバスに他の科目とのかかわりを示して成果を積み上げることで能力を身に着けたことを可視化するという発想もあり、学位授与の方針と卒業研究のかかわりがきちんと示せていれば、卒業研究の合格を以って学位授与の方針を満たしたという考え方もある。

○学位授与の方針に掲げる力をどれだけ身につけられたか、を学生自身が自覚できるかというのは重要。他大学では大学のコミットメントとして、入学時にしっかり学位授与の方針をアピールして、卒業後にもその能力を在学中に身につけられたかを追跡調査している事例がある。現状の本学の学位授与の方針は格調高く、その分内容が明確になっていないようにも見受けられる。より噛み砕いて理解し、どれくらい実現できるようになったか

を学生に確認したい。学年ごとに学位授与の方針に定められた要件の進捗状況を管理している大学もある。こういった取り組みで学生と大学が一緒に考えていけるのではないか。

○ポートフォリオについては入力率が高いところはかなり学部学科単位で手を加えている。自分のモデルケースになる先輩のレーダーチャートの形を示して、この人はこの進路に行っていることを示してあげる等の方策が考えられる。

○ある大学では、このカリキュラムを取って、このような取り組みをしている先輩はこんな進路になっている等、そのような類型を AI で示している事例がある。

③本学の長所・特色について

＜書面評価結果概要＞

今回の外部評価において、本学の内部質保証体制、教育・研究活動等の取り組みについて、今後も本学にとって適切な方法で丁寧に行っていくことの提言をいただいた。また、本学の長所・特色として、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」「リカレント教育」「新実力主義」に関してコメントをいただき、特に「新実力主義」については、これが 3 つのポリシーと接続し、どのように学生を鍛え上げ、成長させる大学なのかが問われる試金石となる旨のご指摘をいただいた。

＜意見交換テーマ：本学で新たに展開する教育プログラムについて＞

●本学では近年、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」「新実力主義教育プログラム」等、新たな教育プログラムを展開している。このような新たな視点での教育プログラムについて、学生の参画を促すためにどのような工夫が必要か。また、社会人教育等も含め、今後どのような種類の教育プログラムの展開が考えられるか。

○本学の実力主義は広く門戸を開いて、実力をつけて卒業させるという訴求力があった。それと比較すると新実力主義というのは、「こういう力を身に着けてください」という提案に見える。本学は高校生から学費が安いにも関わらず、しっかりと実力が身につくイメージを持たれている。一方で、実力主義という言葉が、「実力がないと卒業できない」というイメージがマイナスに働くことを懸念しているが、本学は自信を持って良いと考えている。

○新実力主義教育プログラムについては CAP 制との関係はどのようになっているか。CAP の緩和はあるか。

●CAP の緩和はしておらず、あくまで本プログラムは他学部・他学科の科目に興味を持ってもらうための取り組みとしている。

○卒業所要単位に含めないという考え方もあるのではないか。副専攻の位置づけにすることで、プログラム修了証明等で就職でも有利に作用すると考えられる。

○開講科目について、スタート時点では今あるものから選択していくことになると思うが、

企業や自治体と連携し、奨学金を出してもらうことも考えられる。企業や実社会とかかわりながら学んでいきたいというモチベーションを学生が感じられる。そういったところにリカレントや新実力主義を絡めていくと有意義ではないか。

●企業との連携については追って検討していきたい。

【当日の様子】

３．むすびに

今回の書面評価結果及び意見交換の内容は、本学の内部質保証システムについての客観的な視点を踏まえた貴重な意見として、今後、内部質保証システム自体の PDCA サイクルに反映させ活用することとしたく、取扱要項第 5 条に基づき、学長から推進委員会委員長に報告したうえで本学ホームページに公表するとともに、外部評価の結果を受けて学長が改善を要すると判断した事項がある場合は、推進委員会においてその改善方法等の検討するよう依頼を行うこととする。

以　上